

I

Aさん（67歳・男性）

職業：無職（元会社員）、家族構成：妻と二人暮らし

嗜好品：40年間喫煙（1日20本）、既往歴：脂質異常症

2週間前より無症候性肉眼的血尿を認め、近医を受診。尿細胞診、画像検査で膀胱腫瘍を疑われ、精密検査を実施した。検査の結果、筋層非浸潤性膀胱がんと診断され、腰椎麻酔下でTUR-Bt（経尿道的膀胱腫瘍切除術）の予定で入院となった。入院後のAさんの受け止め：「入院も手術も初めてです。尿道から管を入れて手術するときいていますが、なんだか痛そうですし、手術後にも尿に血が混じるみたいですね。どうすれば良いのでしょうか。」「手術しても再発すれば、そのたびに手術することになるようなことを先生からききました。せっかく仕事も退職して、これから妻と旅行とか、いろいろと楽しみたいと思っていたのに、残念です。」

問1（25点）

身体的な問題として、出血（血尿）に関連した感染・循環のリスクがある。術後出血のリスク、尿量・尿性状の異常に伴う循環動態悪化の可能性、尿路感染症に関連した感染リスクが挙げられる。また、排尿時痛に関連した苦痛の増大や尿道カテーテルによる不快感、排尿障害の可能性もある。その他、腰椎麻酔での手術のリスクとして、血圧低下、頭痛、吐気・嘔吐、尿閉、脊髄神経麻痺などの合併症のリスクが挙げられる。心理社会的な問題として、手術への不安、術後の疼痛や術後の血尿や術後のセルフケアへの理解不足、再発への不安などが挙げられる。

問2（25点）

血尿、感染、排尿障害、疼痛、腰痛麻酔による合併症などに注意して全身状態を観察し、支援する必要がある。

1. 手術・麻酔に関する説明と不安軽減

- ・手術の流れ、麻酔の方法、痛みのコントロールについて分かりやすく説明する
- ・尿道からの操作は麻酔下で痛みは感じないことを伝える
- ・不安を言語化できるよう傾聴する

2. 術後の尿道カテーテル管理

- ・持続灌流や尿路感染予防のケアを行う
- ・血尿は術後の正常な経過であることを説明する
- ・カテーテルの固定方法、尿バッグの扱い、清潔保持の方法を教育する
- ・血尿の色の変化や、血塊による閉塞のサインを説明する

3. 再発予防とフォローアップの重要性の説明

- ・医師からの説明内容への理解を確認し、定期的な検査の必要性や再発しても早期発見で治療可能であることを伝える

4. 心理的サポート

- ・「残念」「楽しみが奪われた」という気持ちを受け止める
- ・生活の質を保ちながら治療を続けられることを説明し、希望を持てるよう支援する

5. 将来の生活設計に関する相談支援

- ・再発リスクはあるが、治療しながら生活を続けている患者が多いことを伝える
- ・旅行などの楽しみを完全に諦める必要はないことを説明する

6. 家族（妻）との情報共有とサポート強化

- ・妻にも手術内容や術後の経過を説明し、サポート方法を共有する

Ⅱ (50点)

家族は突然の状況に直面し、強い動揺や葛藤を抱えながら判断を迫られるため、患者本人の価値観を反映した意思決定が難しくなることが多い。この課題に対して、救急医療の現場では多職種連携と看護師の専門的役割が極めて重要になる。以下のように、多職種が連携し、一貫性をもって家族の信頼関係を構築しながら支援していく必要がある。

1. 患者本人の意思を尊重した代理意思決定のために必要な多職種連携

1) 医師：医学的判断と治療選択肢の提示

- ・病状・予後・治療の選択肢（延命治療の可否、撤退の可能性）を明確に説明する
- ・家族が理解できる言葉で、治療の目的と限界を伝える
- ・不確実性を含めた医学的情報を誠実に共有する

2) 看護師：家族支援・意思の代弁者としての役割（後述）

3) 医療ソーシャルワーカー（MSW）：心理的・社会的支援

- ・家族の心理的負担を軽減し、意思決定に向けた環境を整える
- ・家族関係やキーパーソンを把握する
- ・経済的・社会的背景の整理し、家族が冷静に判断できるよう、周囲の環境を整える

4) 臨床倫理コンサルテーションチーム

- ・治療差し控え・撤退に関する倫理的問題を整理する
- ・患者の価値観を中心に据えた意思決定プロセスを支援する
- ・多職種で倫理的視点を共有することで、家族の負担を軽減し、判断の妥当性を高める

2. 看護師の役割：代理意思決定を支える中心的存在

救急の場では、看護師は患者と家族の最も近くにいる存在であり、意思決定支援のキーパーソンとなる。

1) 患者の価値観・人生観の把握（意思の代弁者として）

- ・家族から患者の普段の生活、価値観、人生観を丁寧に聴き取る
- ・「本人ならどう判断するか」を家族と一緒に考える
- ・患者の過去の発言（延命治療への考え方など）を引き出す

2) 家族の感情への寄り添いと意思決定の心理的支援

- ・突然の状況に動揺する家族の感情を受け止める
- ・「どんな選択でも、患者の思いを尊重した判断である」ことを伝え、罪悪感を軽減する
- ・家族が冷静に考えられるよう、時間と空間を確保する

3) 医師の説明内容の補足

- ・医師の説明が理解できているか確認し、分かりやすく補足する
- ・専門用語を生活者の言葉に置き換える
- ・家族が質問しやすい雰囲気をつくる

4) 多職種間の情報共有のハブとしての役割

- ・家族から得た患者の価値観や意向をチームに共有
- ・医師・MSW・倫理チームと連携し、意思決定プロセスを調整
- ・チーム内で説明内容が統一されるよう調整する